

会議録

会議名	第3回 恵庭市まちづくり基本条例市民検討委員会
会議日時	令和5年4月27日(木) 14:00~16:10
場所	市民会館2階 中会議室
会議参加者	委員～横山委員(委員長)、泉谷委員(副委員長)、茶園委員、小隅委員、東海林委員、E委員、徳家委員、熊谷委員、藤原委員、中井委員(欠席:小島委員) 事務局～大槻企画振興部長、高橋企画振興部次長、小山田企画課主幹、吉成企画課主査、船田企画課主任主事 傍聴～1名

1. 開会

企画課主幹	只今から、第3回恵庭市まちづくり基本条例市民検討委員会を開催いたします。なお、小島委員におかれましては、本日所用のため欠席されております。
-------	---

2. 委員長挨拶

企画課主幹	続きまして、横山委員長からご挨拶をお願いいたします。
横山委員長	前回もたくさんの意見がでたことから、今回も引き続きグループワークを予定しております。私もそれぞれのグループに顔を出しながら意見をお聞きしたいと思います。よろしく申し上げます。

3. 議事

1) 前回会議の振り返りについて

企画課主幹	以降の議事につきまして、委員長に進行をお願いいたします。
横山委員長	事務局から前回会議の振り返りについて、説明をお願いします。
企画課主査	私の方からご説明させていただきます。 まず、はじめに本日のタイムスケジュールについて説明します。 <資料1 2ページ目を説明> 今回も前回に引き続き、市民ファシリテーターという取り組みで、NPO法人まちづくりスポット恵み野が開催する講座を受講した市民が会議が円滑に進むように進行や、記録を作成します。市民団体として活動しており「ふあしらさるチーム アジト」という団体になります。 ※ファシリテーター自己紹介 それでは、前回の振り返りを行います。 <資料1 5ページ目以降を説明>

【要約】

「協働によるまちづくり」を検証する視点から重点項目として次の4つを設定し、今回は重点項目1、3、4をグループワークで議論しました。

【重点項目3】 職員の協働によるまちづくりの取組

- ・ 人事評価、市役所のボランティアサークルの取り組み
→重要性が高い
- ・ 職員が意義を理解して活動することが大事
→意識の醸成が重要
- ・ 職員だけに限らず、子供の頃からそういった市民協働の取り組み意識教育が必要

【重点項目4】 議会・職員の協働によるまちづくりの取組

- ・ 議員提案条例について議論
→市民が参加して作られたか、作ったものをどうしていくのかも含め
議員自身の情報発信が重要
- ・ 議員活動がわかる情報発信の取り組みがあると身近に感じられる

【重点項目1】 市民の協働によるまちづくりへの参画

視点①

(1)市民参加・参画の後押しについて

(2)実効性のある行政評価について

- ・ 市民参加マニュアル、行政評価マニュアル
→よい取り組みだが、職員への認知度を高める必要がある
- ・ 市民参加の促進
→審議会での公募委員を増やすための取り組みとして、開催日時を働いている人も参加しやすくなる工夫を行う、募集も声掛け、企業へも募集をかけるなども重要

視点②

(1)地域と連携した体験型事業について→通学合宿など

(2)コミュニティ・スクール（学校運営協議会）について

- ・ コミュニティ・スクールは地域の力を借りて学校運営を助けていく観点、そこに地域の人に関わって協働のまち作りが進むという観点から重要→認知を深めていくような取り組みが大事
- ・ 具体的な意見としては、地域の人と学校をマッチングさせる取り組みがあると良い
- ・ このような取り組みをしていくためには人材不足
→人材育成が大きなテーマになるのでは
といった意見が出ていました。説明は以上です。

横山委員長	これまでの説明で質問・意見はありますか？
委員	なし
横山委員長	それは、グループワークについて説明をお願いします。
企画課主査	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の意見を今後どのようにまとめるかといった部分（スライド 11～15）はグループワーク後に説明させていただきます。 ・資料 1 のスライド 16 以降を説明 A チームは、市民活動がしやすいまちになっているか B チームは、地域共同の防災は進んでいるか といった観点でグループでお話をして頂ければと思います。

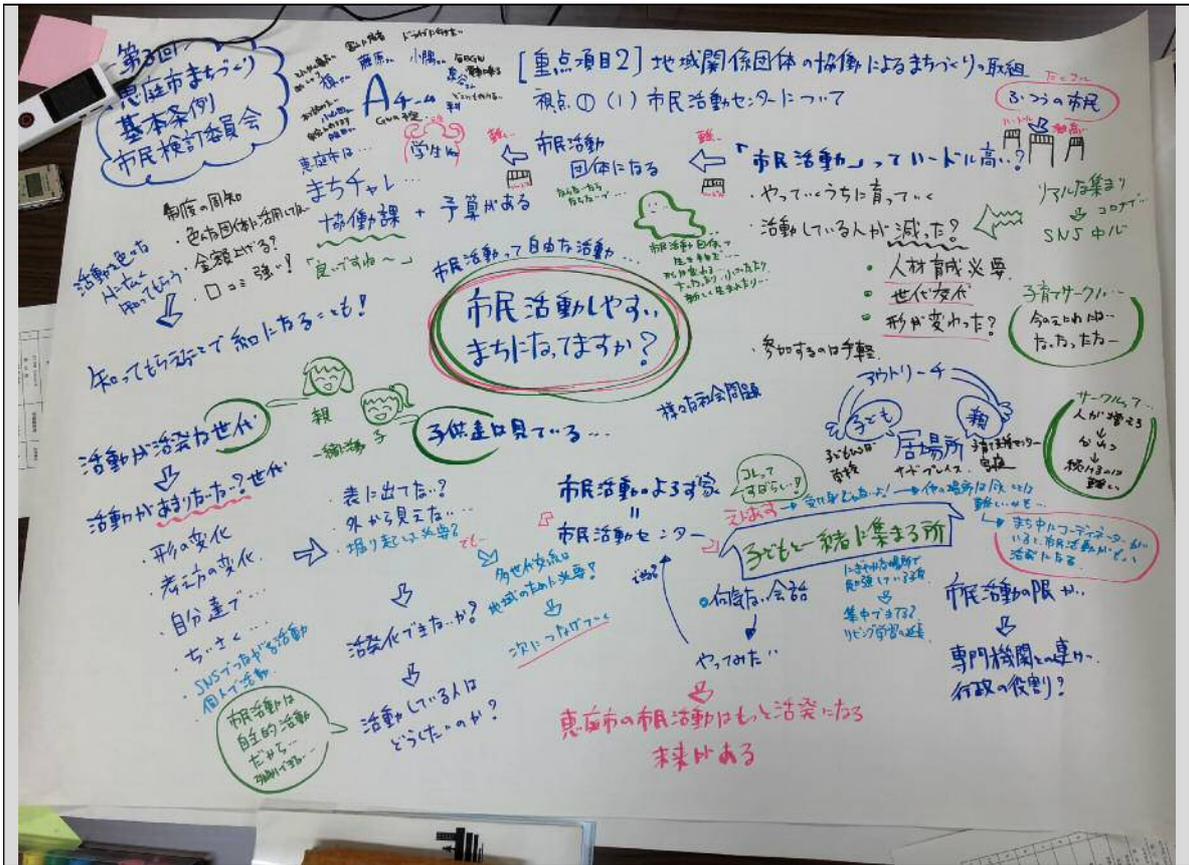
2) 第 1 回グループワーク（チーム A 市民活動センター）

メンバー：泉谷委員（副委員長）、小隅委員、槇委員、藤原委員、
小山田主幹、船田主任（事務局）、平井（進行）

※順番に自己紹介	
※事務局から議題について説明	
ファシリテーター	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動センターがテーマですが、少し広くとって、「市民活動がしやすいまちになっているか」という点でお話してほしい。
A 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自由にできるのが、市民活動だと思う。 ・そう考えると恵庭市の市民活動は自由に進められていると思う。
E 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・まちチャレの補助金を使って市民活動をやらせていただいている。恵庭市は行政と市民団体が連携しながら活動できる点がすごいと思う。このような制度があることで活動がしやすい。 ・一方で、一部の人（団体）のものになっていないかという点は気になる
C 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・昔は 1 団体で複数の申請ができたが、いまのお話もあり 1 団体 1 事業となった。 ・金額や件数は検討の余地があると思う。 ・周知についてもいろいろ行っているが、口コミで新規団体がくることが多い。 ・以前は市と一緒に団体がくるが多かったが、今は団体が市のどこの課と連携するのが良いかといった相談が多くなっており、定着を感じる。
E 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市の担当課に相談すると、まちチャレでできそうという流れになることも多い。
H 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「市民活動」というと仰々しい感じがしてハードルが高く感じられるが、幅広くとらえていくことも必要。
A 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・数年前に比べると活動団体も減ったように感じる。 ・子育てサークルのような団体も人材が引き継がれていないのではないか。
E 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナもあり、活動の仕方も変わってきているのではないか。集まる場所がなくなって、SNS などに活動の場が移行している。

	それがこれからの時代はハイブリットになっていくのではないかな。
C 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の始まりは共通の課題を持った人が集まることから。 ・そこから団体にする際には会計をどうするなどハードルが出てくる。
H 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・すでにある団体に参加することはハードルが少ないが、新しく団体を設立するのは一定のハードルがあるように感じる。 ・世代によっても牽引してくれる人材がいる、いないの差があるように感じる。
E 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学生から参加している人もいる。 ・親が活動している姿を見ている子どもなどはそのような人材になりえる。 ・活動を継続していくことが、人材育成にもつながる。
A 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私自身、市民活動として子ども食堂の運営をしている。 ・少し話がそれるが、子育て支援などもひとり親で孤立してしまっているような人の支援を市民活動で行えないものか考えている。
E 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の仕方もさまざまではないか。 <p>親だけでなく、子どもの視点も必要だし、居場所づくりなども対面、オンラインなどその人、その人でニーズが違うような部分もある。</p>
A 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私のような市民活動をしていると、家庭内での DV などの相談もされるようなこともある。
横山委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・そのようなところまでいくと支援機関につなぐような形になるのではないかな。
E 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・副委員長のやっているような活動がそのような場になっているのは重要なこと。 ・そのような場があることが大事なのだと思う。 ・ここ2・3年コロナもあり、人が集まったの活動が少なくなっているのが、そのような場を奪ってしまっていると思う。
横山委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都三鷹市などは市直営で子育て支援センターを運営していて、医療や福祉との連携をうまくとっている事例もある。 ・これまでの議論にもあったが、団体として活動するのは一定のハードルがある。補助金活用などのメリットもあるが、そこだけを目指して団体にするのを考える必要はないと思う。
A 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今の若い世代がつながる仕組みをどのように作っていくことができるのか考える必要があるのではないかな。
C 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・団体として活動して、市から支援を受けようという活動ではなくなってきたので、表に見えてこないというものもあるのではないかな。 ・集まるのも仲間内でやっているような団体に移行しているのではないかな。
H 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・団体にならないまでも、それぞれが活動して、相互につながるというようなことがきっかけになって、いろいろな人が参加できるような形になっていくとよいのではないかな。 ・昔はオープンな中で市民活動ができていると思うが、いまはいろいろな

	ツールによって変わってきていると感じる。
E 委員	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの活動はあると思うが、市民活動をコーディネート・リードするような機能を持った場所が必要ではないかと思う。
C 委員	<ul style="list-style-type: none"> 市民活動は強制されるものではない。 市民活動センターはやりたいことを支援するコーディネートのような役割はあるが、強制するような場所ではない。 市民活動センターはさまざまな面でのサポートを行うが、会計のサポートなど団体の根幹にかかわる部分は自分たちで行っていくようにしないと継続できない。 学生版まちチャレも申し込みがあるが、近年さまざまな取り組みが行われているように感じる。
A 委員	<ul style="list-style-type: none"> 学生は入れ替わるが、それが新陳代謝になってよいのではないか。 同じ団体でも活動がブラッシュアップされている。
ファシリテーター	<p>ここまで出た話を振り返ると</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民活動をするというのはハードルが高い。 市民活動から団体になる、団体になったあとの活動でも段階によってハードルはさまざま。 まちチャレはよい制度なので、たくさんの人に使ってほしい。 学生の市民活動も活発。 コロナもあって、市民活動の形が違ってきた。 40代のすごく活動している人たちと、その後の世代と人差がある。 形が変わっているというのもある。 生活学習支援の話ではアウトリーチなど大事だが、市民活動の限界もある。
C 委員	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと一緒に集まるところが市民活動の発生源になる印象はある。
E 委員	<ul style="list-style-type: none"> えにあすは、子どもも集まり、目的以外のことで交流もでき良い場所。
<p>※以下のとおり、発表（楨委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民活動のハードルはあるが、一定は活動されている。まちチャレなどの支援もあり。 活動している人は減ってきている。 人材育成が必要、また世代によって支援が必要。 学生の制度もあり、活用がある。若い力大事。 まちチャレ、市民活動自体の周知が重要。 コロナもあり、活動場所が変わってきている。 子育て世代の活動が少なくなっているように感じるが、SNSなどで活動しているのはいか。 市民活動する場所から始まる支援、困っている人を繋ぐ支援が重要。 コーディネーターの存在が大事。 情報交換できる市民活動センターのような場所は重要。 	



※発表を受けて、Aチームに対するBチームの意見

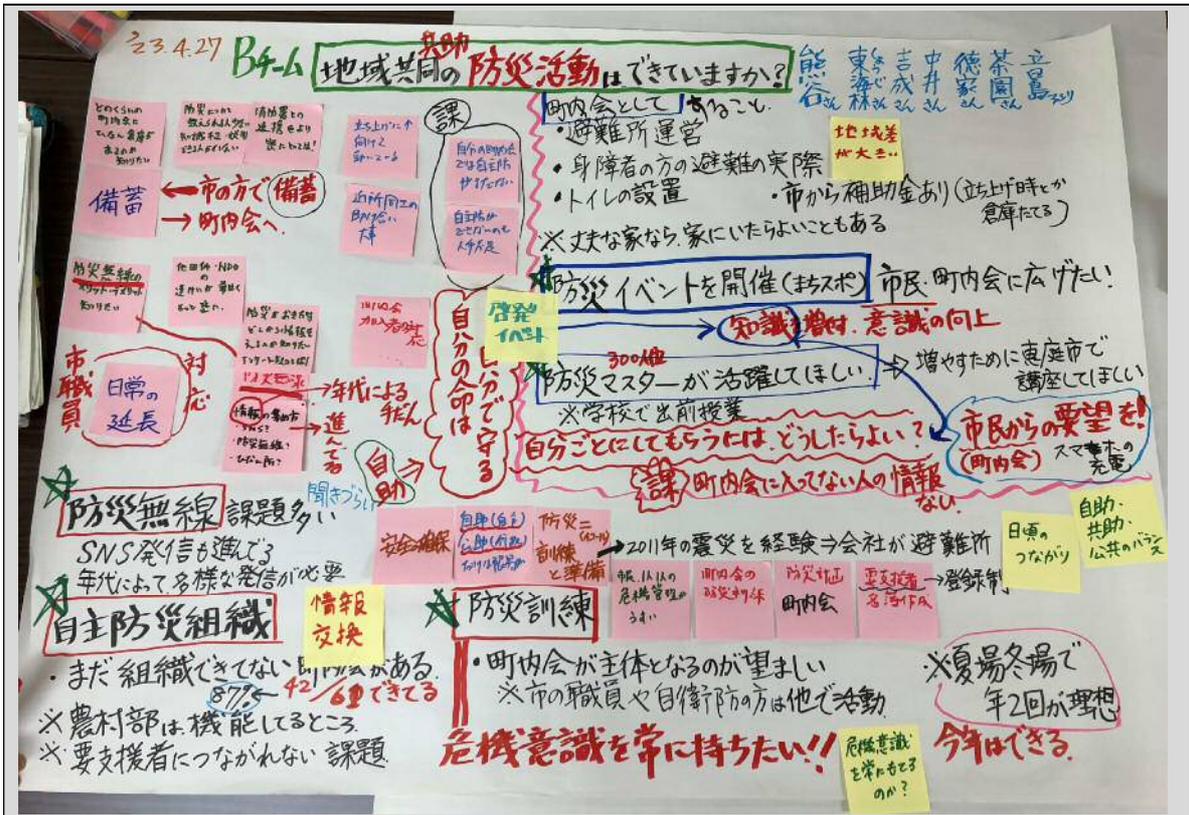
B 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・えにあすはよい居場所ではあるが、勉強などをする環境としてはどうなのか?
I 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・人それぞれなのではないかと思う。少し雑音があったほうが集中できるという人もいるかと思う。
F 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動の方法も多様化してきているが、インターネットなどでつながって市民活動できるような取り組みはあるか?
ファシリテーター	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で活用している人はいると思うが、なかなか表に出てきていないのではないかな。 ・そのような人たちの掘り起こしができていないので、支援につながっていない状況。 ・ただ、そのような支援を求めているという可能性もある。 ・地域の交流や今後の市民活動の活性化の観点からはつながりが必要。
B 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動センターで発行している「市民活動センターだより」のような情報発信は重要
G 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動団体を他の団体とつなげるようなことはできているのか?
ファシリテーター	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動センターが入っている「えにあす」ではできるかもしれないが、別の場所で活動している団体をどこまでコーディネートできるかというのはある。

3) 第1回グループワーク (チームB 防災活動の活発化、防災における情報伝達＝地域共同の防災活動はできているか)

メンバー：茶園委員、東海林委員、徳家委員、熊谷委員、中井委員、
吉成主査 (事務局)、音島 (進行)

※順番に自己紹介	
※事務局から議題について説明	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 重点項目調査票では、「防災活動の活発化」「防災における情報伝達」をあげている。 取り組んできた内容としては、避難所運営マニュアルの作成、自主防災組織の組織拡大、防災無線の更新など まちづくり基本条例の関係条文では、第13条「協働のまちづくり」、第28条「安全で安心なまちづくり」に関係する。
G委員	<ul style="list-style-type: none"> 自分ができることは備蓄の準備。 職員なので仕事に直結してしまうというイメージ。 災害の時は日常のつながりが重要で、その中で情報が入ってくる。
I委員	<ul style="list-style-type: none"> 職員なので、自分の防災というよりは、仕事として行わないといけない。 災害の時の課題は情報発信。 いろいろな情報を得る手段があると良い。
B委員	<ul style="list-style-type: none"> 世代によって情報の取得方法も異なるので、様々な対応が必要。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 防災無線の改修に合わせて、ツイッターなども無線の情報を即時流せるように改善はされている。 高齢者向けには地デジ広報という取り組みもある。
F委員	<ul style="list-style-type: none"> 防災無線も音を危険度によって変えるような取り組みも重要。 災害のときに備蓄品は、町内会が管理しているのか。
B委員	<ul style="list-style-type: none"> 備蓄品は市からきたものを、自主防災組織として運用している。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> そういった点も自主防災組織の役割が大きい。
ファシリテーター	<ul style="list-style-type: none"> 自主防災組織は町内会で運営されていると思うが、どの程度の割合か？
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 61町内会のうち42の町内会で組織されている。
B委員	<ul style="list-style-type: none"> ないからダメということではない。 自主防災組織がなくても日ごろから声掛け、訓練など取組を実施できている町内会はそれでもよい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 防災で言われる「自助・共助・公助」のうち、協働で行われる部分が共助の部分。この共助が協働のまちづくりにつながるもの。
B委員	<ul style="list-style-type: none"> 町内会では市職員や自衛隊員なども中心となって活動してもらっているが、災害の際にはその人たちが仕事に行くので自主防災組織の中で中心となって動けないという点が課題となる。
F委員	<ul style="list-style-type: none"> 防災に対する意識が低いことも課題だと思う。
B委員	<ul style="list-style-type: none"> 胆振東部地震のときは避難所運営で町内会が関わったことによって、未加入の人が町内会に入ったということもあった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人など災害時に支援が必要になる人の対応も、自主防災組織（町内会）によって違う。
D 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・移住してきて1年。町内会での防災活動はなかった。 ・私自身、東日本大震災を東京で経験。絶えず啓発する必要がある。 ・地域の共助についても絶えず意識している必要がある。
B 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・胆振東部地震のときに避難所を運営したが、地域に住んでいる看護師の方や学生の方も運営に手伝ってもらって相談なども受けてもらった。 ・そのような取組も地域の力がないと運営できない。
横山委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・石巻市を見てきた。被災した小学校の跡地を見学施設にしている。避難訓練などを日常的にしている。 ・避難訓練は非常に重要。
B 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ前は避難所運営訓練。車椅子などの人がきた場合の対応や、簡易トイレの使い方などを実施していた。
F 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOで働いている。そこで毎年、防災イベントを開催している。 ・多世代にわたって、楽しめるイベントを予定している。 ・町内会にも持ち帰ってもらえるような取組みをしたい。 ・防災に対する意識の低さ、教える場所がないので、このような取組を進めたいと考えている。
B 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マスターなどを活用していくのも大事。 ・恵庭市で約300名の登録があり、様々な町内会にいる。このような人たちに防災の知識を普及啓発してもらおうという取組みもある。
G 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようにしたら市民が自分事として考えてくれるのか。 ・地域として災害の際に地域住民がどのようなことに困るのかといったこと、胆振東部地震のときは充電設備がなくて困ったという事例もある。このようなことを地域の声として行政に届けることも重要ではないかと思う。
B 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自分事として捉えるためにも知識を持つのが重要。
F 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・防災倉庫に何が入っているかといった情報の共有も大事。
B 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会に入っていない人に情報が伝わらないのが最大の課題。
<p>※以下のとおり、発表（徳家委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災無線は聞き取れない、重要度がわからない、日常化してしまっているといった課題がある。 ・防災の組織作りには課題も残っており、町内会の防災活動はコロナもあって減っている。 ・組織化できていない町内会も一定数あり、支援が必要。 ・組織化できていない課題は地域の人材不足。 ・防災をどのように自分事としてとらえて意識してもらえるかが重要。 ・市民団体・町内会が主体となった防災イベント、防災訓練などでの意識啓発も重要。 ・防災マスターとして登録されている人の活用も重要。 	



※発表を受けて、Bチームに対するAチームの意見

E 委員	・災害のときにどのように情報を取りに行ったらよいかわかっているのが大事。
C 委員	・町内会に入っているが、知らないという状況もある。 ・避難所がどこなのか、そのときの役割はどのようなものなのかなどをわかっていないと動けない。
ファシリテーター	・日ごろから、声掛けできる関係性が防災のときにも生きる。
E 委員	・防災イベントによる啓発は重要だと感じる。
A 委員	・防災訓練も継続して実施して検証していくことが重要ではないか。 ・過去には、町内会で防火予防の啓発を子どもと一緒に回るなども行っていた。

※全体のふり返り（板書担当：菊地主査）

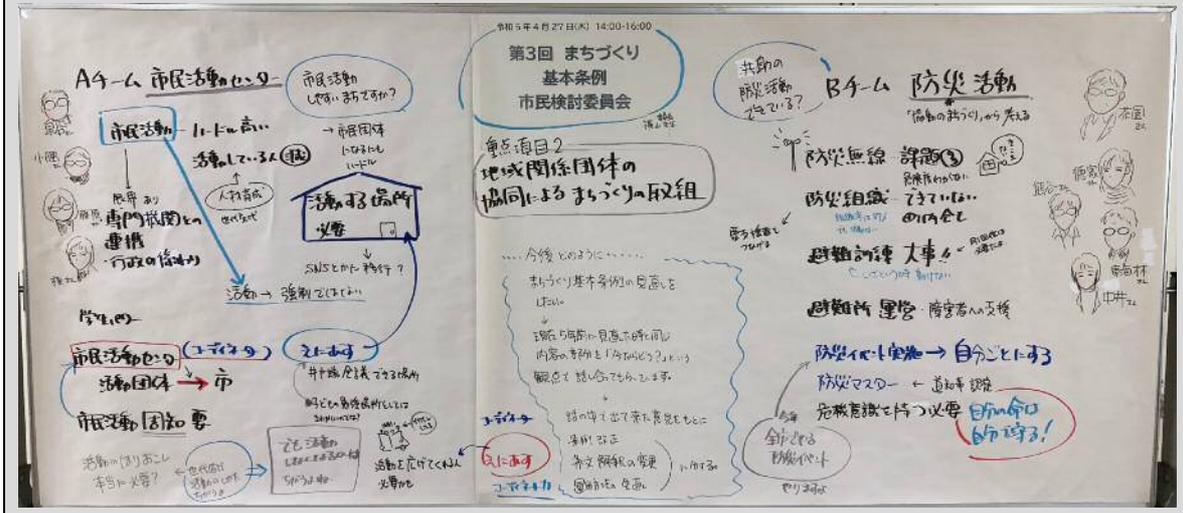
- ・ A チーム：市民活動は一定のハードルがある。
人材育成、世代交代が必要。
市民活動として限界のある活動は専門機関との関わりも必要。
活動する場所が SNS に移行しているのではないかといった意見もあった。
活動の周知は必要。えにあすは人が集まれる場所としての役割が大きい。
目的とは違った広がりも効果としてある。
市民活動センターはコーディネート力あり、そのような人材は重要。
- ・ B チーム：防災無線の課題はある。

防災組織は組織率は87%と一定程度あるが、本当に活動につながっているかという課題はある。

普段からの訓練が重要。要支援者名簿の活用など重要。

イベントなどを通して自分毎として考える。

防災マスターの活用なども重要。



4. 今後のながれの説明

横山委員長	今後のながれについて、事務局から説明をお願いします。
企画課主査	<p>(資料1 スライド11)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、5年前重点項目として整理したものについて振り返りを行っているところ。 ・今は、図の中央の実践状況の確認という部分。 ・下の矢印のところ、グループワークの議論の中での課題や問題が強さで強中弱と分けて、それぞれの対応を考えていくこととしたい。 ・課題・問題があるものは条文の変更を検討、条文の変更の必要がないものは、その強弱で「逐条解説での追加」「運用面の改善」などに区分けする。 ・このような区分けを5回、6回の会議で検討していきたいと考えている。 ・前回のグループワークで出た意見を整理したものが資料2。 <p>あくまで案ですが、このようなイメージで整理してはということ事務局案で考えている。</p>
横山委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局の案が示されましたが、今日の議論でも話題がありましたが、条文に反映させるような項目ではないが、政策面でも重要な問題になるような話題もあった。 ・運用面の改善が一番弱い項目となっているが、それとはまた別に政策課題として捉えるような項目も必要ではないかと感じたところ。 ・しかし、概ねの区分はよいのではないかと思います。

5. その他、6. 閉会

横山委員長	本日の議題はここまでとなりますが、他に何かありますでしょうか。
全体	(※質問・意見無し)
横山委員長	事務局から何かありますでしょうか。
事務局	次回以降の日程について、6月1日を予定しています。
横山委員長	では、本日はこれで終わりということにして、次回は6月1日に開催ということでよろしくお願ひしたいと思ひます。どうもご苦勞様でした。

以上 (16時10分終了)